

学会賞の選考結果について

証券経済学会賞選考委員会

1. 応募状況

応募点数 4 点（著書 3 点、論文 1 点）

2. 選考結果

最優秀賞 該当なし

優秀賞 大坪 稔『日本企業のグループ再編—親会社・上場子会社間の資本関係
の変化』 中央経済社 2011 年 3 月

築田 優『証券化と住宅金融—イギリスの経験—』時潮社 2011 年 6 月

3. 講評

選考に際して、以下の基準で応募業績の審査を行った。

- ・証券経済学会賞の選考委員会規約の基準を満たしているか
- ・応募業績が広く一般に入手可能か
- ・学術書としての要件を満たしているか
- ・問題意識と分析の視点が明確であるか
- ・オリジナリティがあるか
- ・証券経済学会のテーマとして相応しいか

応募業績のうち応募論文は、選考委員会規約 2 の(2) を満たさず、大学・研究機関の紀要に掲載された論文でもない。また、広く一般に入手可能なものではない。内容においても、選考対象とはならなかった。応募業績のうち、選に漏れた著書については、評価が分かれた。本書は学術書としての要件を満たし、問題意識もクリアでオリジナリティがあり、応募業績の中で完成度が一番高い。しかし、内容において選考委員会規約で定められている著書とは言い難い。このため、残念ながら、受賞とはならなかった。

受賞作の 2 点については、いずれも最優秀賞には該当しないものの、全員一致で優秀賞に決定した。大坪氏の著書は、親会社と子会社・関連会社との資本関係を詳細に実証分析したもので、この分野におけるパイオニア的な研究と高く評価された。しかし、仮説の中には実証的に有意でないものもあり、説得性が十分でないものも見られたため、最優秀賞には届かなかった。築田氏の著書は、これまで未開拓であったイギリスの住宅金融を分析した先駆的な研究であり、カバードボンドや住宅金融への公的介入などイギリス固有の特徴が分析されている。ただ、理論的枠組みと歴史分析・実証分析との間に齟齬があり、このため最優秀賞ではなく優秀賞とされた。

以上